

第9回呉市文化財保存活用地域計画策定協議会

日時：令和6年2月15日（木）10:00～11:15

場所：呉市役所 2階 202会議室

出席：安倍広志，有松唯，上寺哲也，岡本二郎，兼田勝彦，岸泰子*，砂本文彦*，平田己恵子，藤田盟児*，古本信治，森原由佳

*オンライン

欠席：小野香澄，兼光賢，坂光秀和，戸高一成

1 開会

事務局：本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。ただ今から開会いたします。本日は，藤田会長，砂本委員，岸委員がオンラインでの参加となり，小野委員，兼光委員，戸高委員，酒井委員が欠席となっています。

会長：策定委員会も今日が最後ということになります。みなさまのお力をいただきまして，ここまでこれたと思っています。オンラインでの進行になりまること，心よりお詫び申し上げます。今日は，いろいろな意味で，今までやってきたことを確認いただき，これで認めて頂けるという形に持っていきたい。ご協力をよろしく願います。

事務局：ここからの進行は，藤田会長に議長をお願いする。

2 協議事項

(1) 今後のスケジュールについて

事務局：協議会は，本日で最後になる。昨日，文化財保護委員会で意見を窺った。今後，年度末まで書面のやりとりで修正を行っていく。庁内では，年度内にパブリックコメントの結果を報告する。年度内で素案を確定させ，来年度は文化庁認定に向けた動きとなっている。文化庁提出後は，関係省庁の最終チェックを受け，7月に認定となる。計画認定後は，推進協議会と言うことで，本計画を実施していくための協議会を立ち上げたい。

会長：推進協議会は，今のメンバーが残る，新たに加わるなど見通しはあるのか？

事務局：基本的には，現在の策定協議会のメンバーに委員として残っていただき，今後の推進状況についてご指摘をいただければと考えている。

会長：推進になればこういう方もいると進むのではなどのご意見があれば事務局に連絡いただきたい。すべて反映させるのは難しいと思うが，事務局で委員を選定していただき，推進委員会を立ち上げるということで良いか。

会長：文化庁の確認が終わって公開になった後，今のメンバーにまた集まっていたいただき，推進についてご意見，ご指導いただくといことでよろしく願います。

(2) 呉市文化財保存活用地域計画素案について

事務局：計画素案の概要について（資料2について説明）

パブリックコメントの結果について（資料3について説明）

文化財保護委員会からの指摘にともなう修正について（資料4について説明）

会長：ただいま説明いただいた内容に関して、ご意見、ご質問あればお願いしたい。

会長：資料3、4に関してはこれで良いかということで承認をお願いしたい。資料2に関しては、何をみなさんに確認すれば良いか？

事務局：資料2については、委員の皆様は何度も見ていただいているので概略の説明とした。

会長：資料2についても、内容を確認していただきたい。良く完成してきたと思っている。見やすくなった。

安倍：文化庁に提出するため、誤字や見栄えに関する修正もしていきたい。前日も意見した索引についても、ページ数がかたまった時点で作成していきたい。

会長：報告書の一番最後の部分が固まっていないようなので、そこはよろしくをお願いします。

会長：まず資料2に関して、議事脱字、体裁に関して気が付いたことがあったら、事務局に届ける。協議会に諮る必要はなく、事務局に連絡してもらえば良い。作業上のメ切について、事務局より委員のみなさんに説明をお願いしたい。

事務局：協議会のみなさまからの細かい修正は今月末までをお願いしたい

会長：お時間がある時に、ざっとみていただき、気が付いたことについてはお願いしたい。委員会として、ここは修正すべき協議が必要であれば、言っていただき、ここで協議して、修正指示を出したい。

会長：全体の構成、考え方で修正すべき箇所はないか？これでよろしいか。

（一同了承）

会長：これで良いということなので、ありがとうございました。

会長：資料2で回答案が示された。大方このような言い方で良いかと聞いていたが、みなさんからご意見があればお願いしたい。

会長：多少思ったのは、(2)(3)に関しては、質問者がある意図をもって質問されているので、こういう答えが安全かとは思ったが、(3)について、地域では行政も含めて活動が始まっているのか？完全に民間でやられているのか？

事務局：まちづくり協議会では、山本譲氏の絵を活用したウォーキングマップをつくられており、イベントなどで活用している。行政は関与していない状況。

会長：まちづくり協議会がやっているとすると、行政が協議会と対話、関係性を作っていくのは、避けて通れない。掲載してはいますではなく、まちづくりに努力していきますなどの文言があった方が良い。まちづくりを目指した保存活用計画の回答としては弱いかと思った。

会長：その他は、これ位の答え方で良いと思った。特に意見がないようであれば、パブコメ

に関する回答としては、この方向でお認め頂いたということで良いか。

(一同了承)

会長：ありがとうございます。思っていたより、パブリックコメントも充実していた。熱心な方が各地にいることがわかった。

会長：資料4について、赤字の箇所を見ていただいて、意見などあればお願いしたい。

会長：赤字の修正はこれで良いと思う。歴史はリアルなことが感じられることが大事。指摘のように、概説ではなく、具体的に踏み込んだ記述になっている方が良い。これ以外に指摘はあったか？その他、大きな指摘はなかったか？

事務局：保護委員会からあった指摘としては、地質に関する表記に関して、鉱物の名称や専門的な表現について指摘があった。それ以外は、前後関係が対応しているかどうかの指摘になる。

会長：専門用語の指摘はおまかせして良いと思う。保護委員会のチェックの結果について、のような修正と専門用語関係の修正をするということで良いか？

(一同了承)

会長：ありがとうございます。以上で、資料2, 3, 4について承認いただいた。その他について委員に報告しておくことはあるか？

事務局：会長から提案があったように、素案の内容については誤字脱字含めてご意見があれば今月末までに連絡いただければ事務局で修正する。最終的には、藤田会長に内容の確認を一任したいと思うが良いか？

会長：みなさんそれでよければ、最後にチェックをしたいと思う。おまかせいただければと思うがよろしいか？

(一同了承)

会長：これで本日の議事はすべて終了した。策定協議会として集まる場は最後になるということなので、委員の皆様から本計画への考え、思い、協議会に対する感想などいただければ今後に生かせることもあると思うので、一人一言ずつお願いしたい。

岡本：私は、この委員会では、計専門的なところを主に目を通していった。これまで、いろいろ調べてきたことを思い起こしながらチェックした。昨日の文化財保護委員会において、たくさんの訂正意見があり、本日の資料にあるように特に重要な意見をいただいた。あまり力になりきれなかったが、今後もお役に立てればと思う。

兼田：専門的なことが多くて、あまりお役にたてず、勉強させてもらったという感じがした協議会だった。次の段階もあるということなので、できることがあれば協力したい

古本：会に参加させていただき、造船のことなど、呉の歴史がいろいろとわかってうれしくおもう。ありがとうございました。

森原：市民の代表として、まったく専門的なことはわからないが、私でもわかるような内容になっている。勉強させていただきたい。

平田：観光は裾野が広く、現在観光庁はインバウンドだが、観光と文化をつなげるならば、

世界的にみると、世界では文化財を稼ぐ観光として活かされているが、日本では文化財が稼ぐ観光になっていないので、観光庁でも文化財と観光をくっつけるために努力している。コロナが尾張、外国人がいっぱいきてくれているなかで、文化財という文言をよくみる。これから観光と文化財がセットでできるのではないかと思っている。

上寺：参加させていただきありがたかった。この計画はやっとスタートラインに立ったと感じている。私は呉の外からやってきたが、これほどたくさん色々なものがあるのに、活かしきれていないと言っていた。活かすための台本ができたと感じている。学校としては、学生を巻き込んでいろいろなところに出て、調べたり、みなさんに公開できるような形にできればと思っている。

有松：考古学の観点からも、呉市は旧石器から近現代にいたるまで多様な文化財が存在している。ここまできちんとわかりやすい計画を策定されたというところで事務局、ご関係者のご尽力に、文化財の位置専門家として心から感謝を申し上げたい。その上で、アクションプランとして、現実にしていくため、一層のご尽力していくことになる。第8章の調査研究機関に属するものとして少しでもお役に立てるような機会があれば協力させていただきたい。

安倍：この2年間、事務局と委員の間で携わっていた。長期にわたり先生方、関係者のみなさまありがとうございました。もともと国の施策としてスタートした事業だが、呉市の文化財を保安活用していく台本として使い倒していくことが必要となって来る。推進していくにあたり、台本を書き換えてアップデートもしていかなければならない。議会との対応などで、もし文化財保存活用計画がなぜいるのかという基本的な質問がでたときなどに答えようと準備していた、以下、ご紹介したい。計画がスタートした時点で、インタビューで藤田会長よりお言葉いただいた。「呉が一つの共同体として生き残るためには、歴史を理解することだと思います、山村の限界集落と言われるところに住んでいるが、ここが良い土地だと思っているから存続する、ここに誇れるものは何もないとなると一気に崩壊する。それが限界集落の特徴と思う。地域計画ができたのは必然で、本質的には観光のためではなく、地域が地域としてあり続けるため、地域としてのプライドを持った住民が、プライドを持つため、その結果として、地域の住民が持続する。そういうことだろうとぼくは思う。」出来てからが大切なので、これをどんどん熟成させて実際につかえるものとして実績を残していきたい。

砂本：荒平さん、平田さんなどにお願ひし、呉市のことを委員会以外でも勉強させていただく機会をもらった。過去のことを調べていくが、過去は昔のできごとのままだと忘れられていくが、意味がある歴史にしていくことが大事。我々自身が、呉のまちに誇りを持っているということで、意味も発見される。平田さん、荒平さんとくれのまちを回った。現地を見に行ったり、話し合いを持ちながら、現物に触れながら過去を歴史に変えていくのが必要かと思う。

岸：今回、計画を作成のなかで、事務局に大変ご苦勞をおかけした。呉は市町村合併で、海

から山まで手に入れた。大変まとめるのにご苦労されたかと思う。今回まとめたのは喜ばしい。まちづくりに関わられている市民の方の熱意を感じた。他地域でも地域計画の委員をしているが、地域によってさまざま、地元が興味ないところ、熱心なところもあるが、それに匹敵する。これで終わるのは一番よくない、これを実行していくことが一番大事。文化財をいかしたまちをつくっていこうということを表明して、何をしたいかということを示していく計画。共有して、この計画が実行できるよう、私も微力ながらお手伝いできればとおもう。大変勉強になった。

事務局：小野委員からコメントを預かっている。市民の立場からの宣言をする。これらの計画を進めるため、呉市には、文化財行政に適切な予算を投じ、職員を増やしていくことを望む。また、市民がそれをしっかり後押しする機運を醸成したいと考える。市民が自分たちの暮らしに根差した文化を守り育てることが大切だと気付いていけるよう、市民として、市民協働を進める立場から努力する。

会長：これで策定委員会を終了したいと思う。

閉会

事務局：委員の方々には、感謝したい。今後も力添えをいただきたい。以上をもちまして、協議会を終了としたい。ありがとうございました。

以上